



<当会のホームページ>

<https://www.furusatotaishi.com>

■ 本会のシンボルマークは、大使同士の情報交換及び、その委嘱者との相互交流を主眼に図案化。4つのモチーフからなり、山（緑色／地方・故郷・自然）と矩形（青色／都会・テクノロジー）と円及び輪（黄、橙／人・情報・ネットワーク）を表現。

HEAD LINE

【1面】

見立て（代替）の効用

——平谷 英明

【2～3面】

観光研究ゼミの学生と地域おこしに取り組む
千葉経済大学短期大学部

ビジネスライフ学科 学科長・教授

——影山 美佐子

【4～5面】

多様な主体との協働による健康寿命日本一
の実現

大分県福祉保健部 理事兼審議監

——藤内 修二

【6～7面】

2021年度収支報告書、2022年度収支予算案
令和3年度活動報告、令和4年度活動方針

【7面】

旅を詠む(六)歌詠み人 鈿谷君子の旅紀行
——鈿谷 君子

【8面】私のふるさと一越前大野

——尾野 玲子

【8～9面】三名(迷)所探し

【10～11面】

入会案内リーフレットを新たな装いのもの
にいたしました

よくあるQ&A～入会に関して～

全国大会のお知らせ

【12面】

事務局より

全国ふるさと大使連絡会議の概要

編集後記 他

見立て（代替）の効用

コロナ禍も3年目となり、ウィズコロナ、ポストコロナ時代として徐々に従前の日常に戻りつつあります。今春、長野では善光寺のご開帳が開催されたと報じられました。このご開帳は7年ごとに開催されるもので、今年が丁度7年目に当たっていたため、ルール通りの開催となった訳です。もっとも、ご開帳と言っても絶対秘仏のご本尊ではなく、これも例年通りですが、身代わりの前立本尊を本堂にお迎えしてのご開帳です。

私は7年前の晩春、長野の友人の案内でお参りしました。前立本尊を拝観したかったのですが、余りに参拝人が多かったので、前立本尊から五色の糸でつながれている回向柱に触れることで代替しました。回向柱を前立本尊と見立てて、回向柱に触れることで前立本尊に触れるのと同じ御利益があるとされているからです。

その後、長野の東山魁夷館で清々しい水墨画を拝見、小布施に回って一茶の「やせ蛙まけるな一茶これにあり」の碑や葛飾北斎の「八方睨み鳳凰図」の天井絵で有名な岩松院を拝観し、さらに葛飾北斎美術館「北斎館」で多彩な作品群を拝見しました。

盛りだくさんに見どころを巡れたのは、前立本尊拝観を回向柱で代替することで時間の節約ができたからで、混み合うご開帳に、よく考えられたシステムと感心した記憶があります。

これは、「見立て（代替）の効用」と言うべきもので、こうした「代替の工夫」は、昔から多くの参拝客を集めて門前町と共存共栄してきた神社仏閣には、よくある話です。

例えば、「四万六千日」という縁日で、この日に参詣すれば4万6千日参詣したのと同じ功德があるとされています。浅草寺では7月10日が四万六千日で、この日に併せてほおずき市も開催されます。

また、富士山登山に見立て（代替し）て、品川富士と呼ばれる品川神社の富士塚に登るといっても昔から盛んに行われていました。

富士塚には一合目から九合目までの標石も置かれていて、頂上から眺めると、高層ビルの無かった時代には、相模湾から房総半島まで一望でき、富士登山の気分も味わえたのではないかと思います。

こうした見立て（代替）の例は、

- ・世界の美術館を巡る代わりに大塚国際美術館（世界の名画が陶板で複製、展示されている）
- ・本場の風物を模した長崎オランダ村、志摩スペイン村、常磐ハワイアンセンター
- ・街並みや雰囲気味わえるリトルワールド、ワールドスクウェア、中華街、リトルインディア、韓国横丁…
- ・京都の風情と街並みに倣った小京都と呼ばれる都市（高山市、角館市、米沢市、…）
- ・江戸の情緒を今に伝える小江戸（川越、栃木、佐原）

などで、いろんな意味合いの見立て（代替）を全国各地で見つけることができます。

私は、この各地にある見立て（代替）が、ポストコロナ時代の旅行形態としてのポイントの1つになるのではと思っています。

と言いますのも、

- (1) 本場、特にそれが海外の場合、実際に行くには特定の人と長時間座席を接することとなりますが、それを好まない観光客もいるなど遠距離の移動が敬遠されること
- (2) 現在は円安で、この傾向はわが国の経済力、金利の状況から当面続くと見込まれており、その結果、海外での買い物、食事、ホテル代などの割高感が今後も続くと考えられること
- (3) 「平成の失われた30年(Lost 3 Decades)」で、わが国は景気停滞していたため、

その間に経済成長した国々に比して相対的に国民が貧しくなっていることなどから、長距離、大規模、贅沢な旅行は避けられ、代わって、その気分を味わうことができる見立て（代替）の安・近・短の旅行形態に変わっていくと思われるからです。

この見立て（代替）は、時間、経費の節約という実質的なメリットに加え、見立てならではの本体や本場と違った独自の個性などの魅力を発見できるという面白さもあります。

令和の旅行先として、見立て（代替）の効用を活用するのも1つの視座と見られますが、如何でしょうか。

代表 平谷 英明

観光研究ゼミの学生と地域おこしに取り組む

千葉経済大学短期大学部

ビジネスライフ学科 学科長・教授 影山 美佐子

コロナ禍での
生活の楽しみは……

私たちのこれまでの生活が、コロナウイルス感染拡大により様変わりしています。

私は県の職員から千葉市は稲毛区にある千葉経済短大の教員に転職しましたが、教員として少し慣れてきた2020年春にコロナウイルス感染拡大が始まりました。やっと授業用の教材が完成した時に、オンライン授業への転換を余儀なくされました。DX（デジタルトランスフォーメーション）推進時代と言われている中で、自身も取り組む必要に迫られました。まずは、授業資料を学生に提供して、自分の好きな時間に課題を行ってもらい、提出する「オンデマンド型」から始めました。6月からは分散登校を始めたので、対面授業とオンラインでの二重対応を行ったので、準備が大変でした。パソコン利用ではなく、スマホで授業を受けている学生もいます。それぞれのWiFi環境にも差があり、学生にとって、オンラインが対面同様の教育効果を得ることができるのかしら……と心配でした。

9月からは対面授業を基本として講義を行ってきました。この年に入学した学生たちは、入学式が行われることもなく、マスク+分散登校+2メートル以上離れて話すこと…などなど様々な制約を受けていました。そんな生活でも、七夕やクリスマスのイベントなど、学内開催のイベントを学生自らが、企画を練り上げ実施したことは良い経験になっていることと思います。外部のお客さまは呼べませんでしたが、クリスマスイベントのファッションショーでは、学生たちのウエディングドレス姿も披露し華やかな時間を過ごすことができましたね。限られた条件の中でもひと工夫することで臨機応変な仕事ができたと、卒業した学生たちは自らを評価しています。

短大教員として、現在5年目を迎えています。地域の方々とのネットワークを大切にしながら、地域活性化を支援する公務員生活の楽しさを学生に伝えたいと思っています。そして、学生生活を送っている地域の魅力を再発見し、家族やお友達に地域の魅力を発信してほしいのです。もちろん、社会人になって出会うであろう数多くの人たちにも。社会人として羽ばたいていく学生たちが「一緒に働きたい人」になることを願い、ビジネスマナーや地元千葉県の魅力などについても話しています。

地域活性化に向けて日々努めていらっしゃるふるさと大使の皆様、学生たちと観光研究ゼミで取り組んできた事例を報告いたします。

1 千葉都市モノレール株式会社の「モノレール祭り」に参加（2018、2019）

2018年に千葉都市モノレール株式会社と本学は連携協定を締結しました。私が担当する観光研究ゼミに所属する学生たちは、10月開催の「モノレール祭り」にボランティアとして参加しました。

参加前に、千葉都市モノレールの方々からモノレールについての知識について講義していただき、実際に整備状況などの視察も行いました。参加1年目は会社で企画されたイベントのお手伝いスタッフとしてでしたが、2年目はゼミ学生で一つのブースを企画から担当することになったのです。会社で行われる月1回の企画会議にも学生代表が参加をし、自分たちの企画についての協議を行ってきました。対象者は子どもたちとご家族の方。予算や材料の準備やブース運営の人員配置までみんなで考えていきました。当日のお客さまに配布するパンフレット作成も手づくりです。当日の呼び込みも積極的に行いました。ブースの企画内容というのは、千葉都市モノレールのマスコット「モノちゃん」の塗り絵をあしらったうちわ作りの体験ブースです。ご家族連れに人気となり、祭りの最後までお客様が途絶えることなく賑わいました。たくさんのお客様から「ありがとう」の言葉を贈っていただいたことで、モチベーションが上がったと学生たちは嬉しそうにしていました。

参加した学生の一人は、千葉都市モノレールでインターンシップも体験し、見事、入社試験に合格！現在は千葉都市モノレールの社員として活躍しています。勤続すると、モノレール「運転士」の資格試験を受けることもできるそうです。将来かっこ良い運転士姿を見ることが待ち遠しいです。(写真1)



写真1 モノレール祭り

2 北総四都市江戸紀行の研究とマイクロ ツーリズムの作成（2020、2021）

「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」日本遺産として平成28年に認定された北総四都市（佐倉市、成田市、香取市、銚子市）の研究をしました。2020年度は、各地域のお祭りに参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、お祭りは相次いで中止になり、フィールドワークができませんでした。

2021年度は「佐倉市」を研究対象にし、市の方々の御協力のもとに何度も御講演に来てくださっては佐倉の魅力をお教えいただき、市が行っているプロモーションや計画なども学びました。後期授業では、グループごと市内をめぐる観光ツアーを企画し、佐倉市長の西田様の前でプレゼンテーションをさせていただきました。西田様を始め、副市長さん、部長さん、課長さんにまで耳を傾けていただき、学生4グループは温かい励ましのメッセージまで頂戴いたしました。

学生にとっては、市役所に行くことも初めてですし、市長さんと直接会うことももちろん初めての体験です。佐倉市の全面的な御協力で、2021年12月に行われたプレゼンテーションには、千葉テレビや地元のケーブルテレビが取材に来てくれました。テレビカメラを意識してか、いつもふざけている元気な学生たちはどことなく緊張して、顔つきまでもが違って見えました。

終了後には、プレゼンテーションの観光スポットとして紹介した「ヤチクロバァー」を昼食にほおぼる学生たち。佐倉ツーリズムを率先して満喫していました。学生たちの感想には、「自分たちが研究した佐倉市内をゆっくりめぐってみたい」「佐倉は歴史・文化があり、もっと調べてみたい」「コロナが落ち着いたら友達を誘って企画したツアーを実現したい」など自発的に課題を深掘りしようとする姿勢が見られ、成長したなと感じています。

学生が作成したマイクロツーリズムは、佐倉市のホームページで紹介いただいています。佐倉市の皆様方の御協力本当に感謝しています。取材協力くださった千葉テレビ、ケーブルテレビの皆様にも感謝です。(写真2・3)



写真2 佐倉市長と記念撮影



写真3 佐倉市長へのプレゼン



取材風景

3 「大賀ハス70周年記念祭り」と 千葉市内ツアー（2022）

千葉市の花に制定されている「大賀ハス」開花70周年で、千葉公園は賑わいました。今年の観光研究ゼミ（2年生）は、そんな千葉公園も視野に入れながら、グループごとに千葉市の魅力を発信するツアープランの作成に取り組んでいます。



大賀ハス

6月18日、千葉市稲毛区役所の皆様の御協力のもとに大賀ハス⇒千葉公園の戦争遺跡⇒千葉氏ゆかりのお寺巡り⇒千葉経済大学にある県指定文化財「旧鉄道第一聯隊材料廠煉瓦建築」（写真4）のコースに関する視察会を行いました。参加した学生たちは、市の観光ボランティアさんに教わりながら、ツアー企画への知識を存分に蓄えられたようです。前期授業の7月最後には完成する予定です。どんな企画が出来上がるのか楽しみです。



写真4 文化財視察（千葉経済大学）

ウイズコロナの生活は、マスク着用、手指の消毒の徹底、体温測定などを続けていく必要があります。観光庁が公式発表している調査によると、コロナが落ち着いたら外国の方が行きたい国ナンバーワンに挙げている国は日本なのだそうです。清潔感のある印象が世界で認められているようです。日本でも海外からの入国制限が解かれてきており、地域経済活性化に欠かせないインバウンドの推進は経済活性化策の柱になっています。

千葉経済短大では、今年度から「韓国語入門」という科目を新たに開設しました。K-POPや韓国映画に対する学生たちの興味はますます高まっている傾向にあるので、開設と同時に人気科目の一つになっています。観光ゼミの学生の中にも韓国語履修者が多数いますので、先のツアー企画でもウイズコロナ対策と併せてインバウンド推進に向けての新しい工夫が見られることを楽しみにしています。

コロナ禍での「制限された生活」の中での私の楽しみ。それは、学生たちができる限りの範囲で地域活性化について自ら考え、行動に移していく姿を見ることです。コロナ収束後の明るい未来に向けて、大賀ハスに負けない位の大輪の花を咲かせてくれる学生たちをじっくり丁寧に育てていきたいと、切に思う今日この頃です。



多様な主体との協働による 健康寿命日本一の実現

大分県福祉保健部

理事兼審議監 藤内 修二

健康寿命が全国下位だった大分県

健康上の理由で日常生活が制限されることなく、自分らしい生活を送ることができる期間、「健康寿命」の延伸は多くの住民の願いであり、保健・医療・福祉に携わる専門職の使命と言っても過言ではありません。

21世紀の我が国の健康づくり基本計画ともいえる「健康日本21」では、この健康寿命の延伸を目標にしており、第二次「健康日本21」の発表に伴い、2010年の都道府県別の健康寿命が公表されました。

大分県の健康寿命は、男性が69.85歳で全国39位、女性が73.19歳で34位といずれも全国下位でした。2010年の平均寿命は男女ともベスト10に入っていたにもかかわらず、健康寿命が短かったために、平均寿命と健康寿命の差は、男性が10.21歳でワースト1位、女性が13.72歳でワースト4位という状況でした。

当時、健康対策課長だった筆者は、知事から平均寿命は長いのに、健康寿命が短い要因を分析し、健康寿命を延ばすよう命じられました。

健康上の理由で日常生活に支障をきたす人が年齢とともに、どう増えていくかを分析したところ、大分県民は50歳を超えるあたりから急速に増加すること、そして、75歳を過ぎると再び急増することが分かりました。この「50歳の壁」と「75歳の壁」をクリアすることが健康寿命の延伸には必要であると考えました。

特定健診の結果や患者調査による受療状況の分析から、「50歳の壁」は生活習慣病の有病率が高いことが、「75歳の壁」は介護予防等の取組の成果が十分に出ていないことが理由と考えられました。

2. 健康寿命日本一を目指すことに

大分県は、2011年度から全国に先駆けて、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいました。自立支援型ケアマネジメントを実現するための地域ケア会議の開催や多職種連携による切れ目のない地域リハビリテーションの実践に取り組んだ結果、2013年の健康寿命は男女とも大きく延伸し、男性は16位、女性は10位と躍進しました。

この健康寿命の延伸を弾みに、2015年10月に策定された大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」には、2024年までに「健康寿命日本一」を達成するという野心的な目標が掲げられたのです。

3. 2021年に男性の健康寿命日本一を実現！

健康寿命の順位が上がったからといって、いきなり「日本一」を目指すというのは少し無謀といえますが、「日本一」



令和3年度第2回 健康寿命日本一おおいた創造会議

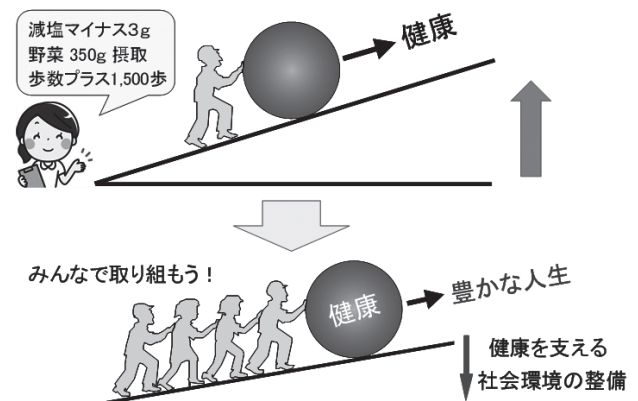
という目標は関係者の気持ちをつににするには効果的でした。しかし、本当に実現できるのか、単なるスローガンに終わるのではないかと、自分も含め、関わった多くの関係者もそう思っていました。

ところが、2021年末に公表された2019年の健康寿命は大きく躍進し、男性は見事に日本一を実現したのです（女性も第4位）。本稿では、この健康寿命の延伸の取り組みを紹介したいと思います。

4. ヘルスプロモーションの理念に基づく取組

地域包括ケアシステムにより、「75歳の壁」は克服できました。残る「50歳の壁」のクリアには、生活習慣の改善が不可欠ですが、それが簡単ではありません。2008年度から開始された特定健診・保健指導ですが、保健指導により、生活習慣の改善の必要性を理解できても、その実践を継続することは容易ではありません。下のイラストのように、その人の置かれた社会環境によっては、個人の努力だけでは生活習慣の改善が困難だからです。

そこで、イラストの下段のように生活習慣の改善を職場や地域の仲間と取り組むとともに、自分の周囲の環境を健康的



な生活習慣を送りやすい環境に変えるという戦略（WHOが1986年に提唱したヘルスプロモーション）に基づいて、取り組むことにしました。

5. 食環境の整備「うま塩プロジェクト」

まず取り組んだのが、「食環境」の整備です。薄味が健康に良いことを知っていても、美味しくなければ、生活習慣として定着することは難しいのが現実です。美味しさはそのままに塩分を控える調理方法を大学と開発しました。

その決め手は「旨味」成分をうまく活用することでした。大分県特産の干し椎茸やカボス等を活用するとともに、醤油や味噌の代わりに塩分が少なく旨味成分のグルタミン酸が多いケチャップをうまく使ったレシピを大学生に考案してもらい、地元スーパーで商品化してもらいました。その結果、年間2万食も売れる「うま塩」弁当がスーパーの定番になっています。こうした取組により、塩分摂取量は年々減少し、高血圧で医療機関を受診する人も徐々に減ってきています。



うま塩弁当

6. 就労環境の整備「健康経営の推進」

若い世代の生活習慣の改善には、職場での取組が効果的です。就労人口の高齢化に伴い、従業員の健康に「投資」をするという「健康経営」の理念が注目されるなか、協会けんぽ大分支部と協働で、健康経営の推進に取り組みました。全国に先駆け、独自の認定基準を設け、優れた企業の知事顕彰も行っています。こうした取組は経産省の「ホワイト500」などの健康経営優良事業所の認証制度につながっています。

また、職場における具体的な取組を支援するため、保健所保健師が企業を訪問しています。年間750社の企業訪問により、登録企業は2,000社を超え、認定企業も700社を超えています。協会けんぽ大分支部では特定健診でのメタボ該当率も年々改善しています。

7. 「健康寿命日本一おおいた創造会議」の立ち上げ

健康的な社会環境の実現のためには、保健医療福祉関係者だけでなく、県民生活の様々な場面に関係する各業界の協力が不可欠です。そこで、商会議所等の経済団体、メディア、大学、行政、保健医療福祉職能団体、住民組織・団体で構成される「健康寿命日本一おおいた創造会議」を2016年に立ち上げました。

この会議では、健康寿命を延ばすための取組について、



スーパー（おうえん企業）の野菜摂取PRの様子

構成員から意見等をもらう場ではなく、それぞれの取組について情報共有することで、優れた取組の「横展開」を図るとともに、後述の「健康寿命日本一おうえん企業」との協働を実現するためのプラットフォームとすることをめざしました。

8. 健康寿命日本一おうえん企業との協働

「お」おいた県民の「う」んどうと「え」いよう、か「ん」きょうの改善に、それぞれの企業の強みを活かして協力をしてくれる企業を募りました。現在、100社を超える企業・団体が登録されていますが、その特徴は、CSV（Creating Shared Value）の理念に基づき、健康という価値を企業と地域社会が共有し、創造していることです。健康をキーワードに、企業が新たな商品やサービスを開発し、それが企業の業績アップにつながるのと同時に、健康寿命延伸にもつながっています。

ある金融機関は、健診を受けると利率が0.15%上乘せされる「健康応援定期」という金融商品を開発し、毎年、1万人近い県民が健診を受けて、100億円を超える定期預金をしています。その結果、健診受診者は増え、金融機関は預金残高が県下で3位に躍進しています。

9. 楽しみながら健康づくり 健康アプリ「歩得」

スマホの無料アプリ「おおいた歩得」は2017年末に開発され、現在、7万人を超える県民がダウンロードしています。1日に8,000歩あるいて、健康情報を入力すると100ポイントが付与され、様々な健康イベントなどに参加するとボーナスポイントが付与され、3000ポイント以上貯まると、「歩得」カードがスマホに表示されるようになります。それを県下400店舗の協力店で提示すると、商品の割引など様々な特典が得られるというものです。「おうえん企業」とのコラボで、1週間連続で5,500歩以上歩くと、先着1000名が「おうえん企業」から提供された商品をゲットできるというミッションも大好評でした。「おうえん企業」としては、健康づくりイベントに協力しながら、新商品の販売促進にもつながるという一石二鳥になっています。



健康アプリ「歩得（あるとつく）」の紹介ブースの様子



健康アプリ「歩得」のトップ画面

10. 終わりに

紙面の関係で、ごく簡潔にしか紹介できませんでしたが、多様な主体との協働による取組の詳細は、「健康寿命日本一おおいた」で検索いただければ、幸いです。

全国ふるさと大使連絡会議

2021年度収支報告書

2021年04月01日から2022年03月31日まで

(金額単位：円)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	196,462	かわら版制作費	377,850
会費収入 前年度分	0	通信費	37,400
今年度分	513,000	郵送費	78,235
全国大会	88,000	事務費	16,871
雑収入	9,605	事務所費	36,000
		全国大会費用	99,209
		(経費支出小計)	645,565
		次期繰越金	161,502
収入の部合計	807,067	支出の部合計	807,067

2022年度収支予算案

2022年04月01日から2023年03月31日まで

(金額単位：円)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	161,502	かわら版制作費	400,000
会費収入 前年度分		通信費	50,000
今年度分	520,000	郵送費	80,000
翌年度分		事務費	30,000
全国大会会費収入	630,000	事務所費	36,000
会員交流会会費収入	480,000	全国大会費用	600,000
		会員交流会費用	400,000
その他収入		(経費支出小計)	1,596,000
		次期繰越金	195,502
収入の部合計	1,791,502	支出の部合計	1,791,502

2021年度の収支報告の内容を帳簿並びに証拠書類と照合精査し、妥当かつ正当なることを認めます。

2022年4月25日 監事 古川 文久



令和3年度
(2021年4月～2022年3月)

活動報告

概況：引き続きコロナ禍のもと、ウィズコロナ、ポストコロナの地域おこしに資するように、各地の新しい取り組みなどについてかわら版、HPなどにより情報提供に努めるとともに、コロナ禍に沈静化のきざしが現れた10月に、感染対策に十分配慮したうえで全国大会を開催し、情報交換、交流を図った。併せて総会を開催し、新しい執行体制についての承認を得た。

① 会員向けの季刊誌かわら版の発行 98号～101号

特に、100号は記念号として、地域おこしに関連する100の話を掲載した。

また、平成8年8月8日に設立された当連絡会議が令和3年8月に25周年を迎えたことから、101号に25年の思い出の原稿を掲載した。

② HPによるタイムリーな情報発信

かわら版のタイムリーな登載、フレンドリーな入会案内などを行った。

③ 全国大会の開催

10月25日（月）平河町のルポール麹町で開催

観光ブランディングプロデューサーの小松崎友子さんの記念講演を聞き、その後提供いただいた各地の特産物の説明と配布、さらに、自発的な小グループに分かれてルポール麹町の地下の「みちくさ」にて懇親交流が行われた。

④ 会員の増加

会員の高齢化などに伴う退会もあったが、一方で会員の新規入会もあった。

⑤ 理事の増強

新たに2名の理事を加え、執行体制の充実を図った。

旅を詠む (六) ただらに 歌詠み人 鈔谷君子の旅紀行



『兄の慰問』

慰問品の検閲受くと長き列に
待ちしはここらか城址の一隅

濠の辺に面会待てば
拳手なして
通信兵の兄は来たれり

父と十歳のわれは炒り豆蒨あめを
持ちて入りたる西練兵場

父と兄の会話の一つ覚えなし
澄みたる濠の鯉をおぼゆる

遠い日の初めての旅であった。兄の兵役のため定められた面会日。単線の小さな駅から山陽本線福山駅へ出て広島へ。車内は大変な混雑で、小さな私は人と人之間にあって泣き出しそうだった。事実泣いてしまったので、父が少し声を荒げたことを覚えている。

広島の手前の向洋へ差し掛かった時、戦時のことで空襲警報のサイレンとともに列車が止まった。どれぐらいの時間が経過したか判らないが、その時初めて戦争とはこんなことかと知った。

母の持たせた重箱の寿司を一気にたいらげた兄は、面会時間の終了の合図とともに兵舎へと帰っていった。

山郷に住んでいた十歳の私には、その厳しさは当時理解できるものではなかった。入り豆や蒨の干したもなどの袋を小脇に隠すようにして兵舎へ帰っていったのが、子供心に哀れに思えたことの記憶は鮮明に残っている。

その兄は原爆投下時は横須賀の通信隊へ配属され、原爆を逃れて八十代後半まで存命であった。

令和4年度
(2022年4月～2023年3月)

活動方針

概況：コロナ禍も3年目になり、ウィズコロナ、ポストコロナの社会生活が営まれるようになり、徐々に従来の日常が戻りつつあり、また一方で、コロナ禍で新たに生じた動きに拍車がかかる傾向もみられる。こうした動きに対応し、地域おこしに資する情報提供、情報交換に努める。

①かわら版

ウィズコロナ、ポストコロナの地域おこしに資する情報提供・情報交換に努める。

②HP

タイムリーでユーザーフレンドリーなHPとして情報提供に努める。

③全国大会などの開催

- ・夏季交流会 7月20日(水) 18時～ KKR東京 11階 丹頂の間
- ・全国大会 10月20日(木) 16時30分～ ルポール麴町
- ・新年交流会 1月下旬
- ・地域ツアー 適宜

④会員増加

当連絡会議の魅力積極的に発信し、新規会員の増加を図る。

⑤執行体制・財政基盤の強化

新しい時代に対応できるように執行体制の拡充に努める。
財源確保について工夫し、財源基盤の確立を図る。



私のふるさと—越前大野

尾野 玲子 (歌手)

「お清水の菫に染む朝そばを打つ」
「霧まとい天空の城のっと出づ」

私のふるさと大野市は福井市からバスで30分ほどの地にある城下町です。

福井市から足羽川を遡る形で山に入っていきますと、突如平野が広がり穏やかな水田風景が現れます。

大野は従来から交通の要衝で、戦国武将の金森長近が大野城を築き、碁盤の目状の町割りを行うことで町の骨格が出来上がりました。

その後、金森長近は飛騨高山に移封され、そこでも同様の街づくりを行ったので、よく似たたたずまいとなり、ともに小京都(越前の小京都 飛騨の小京都)と呼ばれるようになりました。

また、高山は、朝市(陣屋の朝市、宮川の朝市)で有名ですが、同様に大野では六間道路の朝市が街の台所となっ

ています。

山ふところには九頭竜湖、九頭竜峡があり、街のあちこちに、九頭竜川の伏流水からの湧き水が溢れ、市民はもちろん旅人も自由に利用することができます。

住民は、この湧き水を感謝の思いも込めて「清水」に、「お」をつけて「お清水(しょうず)」と呼んできました。

この「お清水」の恩恵は幅ひろく

- ・「花垣」という名の美味しい地酒ができます。
- ・もちろん美味しい蕎麦も有名です。
- ・さらに、晩秋には霧となって大野城を包み込み「天空の城」を出現させます。
- ・雨に濡れると花卉が透き通る「サンカヨウ」という神秘的な花の群生を作ります。
- ・街の人々に潤いを与え、心を豊かにしてくれます。

このふるさとを歌にして全国大会で披露させていただいたのも、懐かしい思い出です。



わたしのふるさと

尾野玲子 作詞・作曲

- 静かな夜に 降り積む雪よ 心の色を 描くキャンパス
朝日に映える 四方の山 九頭竜の流れ 季節運ぶ
- 雪解け水の ささやく音 大地はめざめる ふきのとう
飯降山の 雲よ晴れて 緑はそよぐ 城の風
- 湧き水溢れ はじける笑顔 長い時を つなぐ朝市
採れたての野菜 「見てっておくんねの！」
心の中に わたしのおおの おおの わたしのふるさと
おおの みんなのふるさと



(参考) 京都の北野天満宮の御手洗祭(みたらしまつり)で神前に供える水は「御手洗水(おちょうず)」と呼ばれますが、大野市の「お清水(おしょうず)」と通底するところがあります。

三名(迷)所探し

日本三景、三古湯、三名爆、三大夜景、三大がっかり……
世に三名所は数多くありますが、新たな視点から新しい三名(迷)所を
探してみようという企画です。



▶▶▶ 詩情に合う『第2のふるさと』に墓を建てた三文化人

今回は、少し変わったところで、生まれ育ったふるさとではなく、自身の詩情に合う地を「第2のふるさと」として、その地に墓を建てた三文化人を紹介します。

1 大町桂月と葛温泉(青森県)

「住まば日本(ひのもと) 遊ばば十和田 歩きゃ奥入瀬 三里半」

十和田観光をするとよく耳にするこの都都逸(街歌)

は大町桂月の作で、十和田湖、奥入瀬溪谷を全国レベルの観光地に押し上げるのに、大きく貢献しています。

大町桂月は高知の生まれ、高知の名勝「桂浜」に浮かぶ月が号の由来。旅と山と酒が大好きな吟遊詩人で、全国を涉猟し、各地に歌碑を残しています。



大町桂月



薫温泉



大町桂月の碑

北海道の阿寒湖には「世の中にかわゆきものは石楠花とまだ恋知らぬ乙女なりけり」

長野県の別所温泉では「戸隠の鬼退治よりかへりきて別所の出湯の酒やくみけん」

といった具合です。

晩年、大町桂月は青森県の薫温泉に長期逗留し、南国高知の出身ながら（出身ゆえに）雪と温泉が気に入って「ころよさ 何にたとへむ 湯の中の 顔のほてりへ 雪のちりくる」

「ころよさ 何にたとへむ 湯の滝に 肩をうたせて 冬の月見る」

「湯を出でて かべにかけたる 手拭の やがて氷りて 棒となりぬる」

（冬籠帖より）

の歌を残しました。また、大好きな薫温泉に骨を埋めたいとの遺志に基づき、薫温泉の温泉宿の近くに墓が建立されています。

2 紀貫之と琵琶湖

高知繫がりとなりますが、「土佐日記」で有名な紀貫之も、第2のふるさとの比叡山の山腹に墓が建立されています。

そこから見える琵琶湖の明るく輝く湖面が大好きで、死後はこの地に墓を建てて琵琶湖を見つめていたとの遺志に沿ったものだそうです。

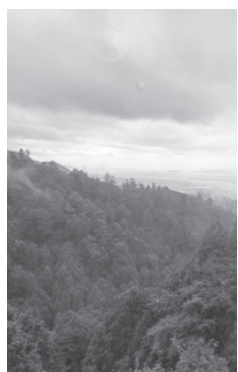
この墓の由来は、麓の坂本駅から比叡山駅に向かう叡山鉄道の車内放送でも流されています。

言うまでもありませんが、紀貫之は、古今和歌集を編纂した大歌人で、その「やまと歌は、…人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。…力をも入れずして天地を動かし…」と和歌のメリットを礼賛した仮名序はあまり

比叡山ロープウェイから琵琶湖を望む



紀貫之



にも有名です。

百人一首に取られている「人はいさ 心もしらず ふるさとは 花ぞ昔の 香ににほひける」も人口に膾炙されています。

面白いことに、この歌にいう『ふるさと』は、奈良県の初瀬の長谷寺の辺りの定宿です。

紀貫之が生まれ育った故郷は京都ですが、当時京都は藤原一族の天下で紀貫之一族は、締め出されており、それで京都の代わりに奈良、叡山に第2のふるさとを求めていたのかもしれませんが。

3 谷崎潤一郎と京都

紀貫之が逃げ出した京都に墓を構えたのが、『細雪』などの文芸作品で有名な谷崎潤一郎で、東京の日本橋蛸殻町の商家の生まれで生粋の江戸っ子ながら、関西の食べ物に魅せられて京都に移り住んだ。

関西の食、例えば明石沖の鯛や京の和菓子の美味しさは、小説の中の食事シーンに縷々描かれ、読むだけで垂涎の思いがするくらいですが、本人も対談で「すきやきにかぎらず、食い物は関西…酒はむろんのこと、鳥だって、魚だって、お菓子だってね。…瀬戸内海の魚は、やはり、むこうで食わなきゃあね。京都はたべものの天国だな。」（昭和33年12月徳川夢声氏との対談『問答有用』）と明言しています。

もっとも、食べ物には大満足されたが、夏の盆地特有の暑さ、冬の底冷えするような寒さには耐えられなかったらしく、前掲の対談でも「京都でいやなのは気候です。ぼくも気候が良ければ、ずっと京都にいたんだけど…」と述べ、晩年は温暖で温泉のある熱海に転居しています。

しかし、墓は食べ物を契機として大好きだった京都の鹿ヶ谷の法然院に建立されています。



谷崎潤一郎

【ご投稿のお願い】

今回は夏季号ということで、8月の夜空を彩る大文字焼きなど盂蘭盆会からの連想で、思いがけないところにお墓を建立した文化人の話を3つ集めてみました。

このような新しい三題断、例えば「SNS映え三景」、「新三大がっかり」、「三迷湯」など従来のものとは別の三〇〇で各地の特徴を紹介するご投稿をお待ちしています。

編集部

「入会案内リーフレットを新たな装いのものにいたしました。」

必要な方は、事務局までご連絡お願いいたします。

申込日 年 月 日

入会申込書

フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日
住所	〒
電話番号	
FAX番号	
携帯電話	
メールアドレス	
縁のある市町村 〔ふるさと大使を委嘱されている方は、そのふるさと大使名もご記入ください〕	()
職業又は肩書	
会員の紹介	有 ・ 無 (紹介者)
ご意見・ご要望	

入会案内



全国ふるさと大使連絡会議

〔お問い合わせ・お申込み先〕

全国ふるさと大使連絡会議 事務局

TEL : 03-3684-0488 FAX : 03-3684-6800

Email : furusatotashi@gotochibz

よくあるQ&A ~入会に関して~

Q1 : 入会すると、どんなメリットがあるのでしょうか？

A1 : ご入会いただきますと

- (1) 会員向けの季刊誌『かわら版』をお送りします。
(1月、4月、7月、10月の年4回発行)
地域おこしの新しい動き、地域おこし協力隊などの実践的な活動の報告
ふるさと短歌・俳句きこう、世界で活躍するふるさと大使の紹介---など
地域おこしに関連する楽しい話題の冊子です。
- (2) 会員交流会、全国大会の案内をお送りします。
(1月の新年交流会、7月の夏季交流会、10月の全国大会)
交流会は、地域おこしの活動家、地場産業の振興に努めておられる方などの話を聞き、その後、会員同士で懇親交流。
全国大会は、知事又は地域おこしの専門家の基調講演その後市町村長又は地域おこし活動家のパネルディスカッションその後懇親交流。ともに東京開催です。地域おこしに関する最新の情報を得るとともに、ふるさとに熱い

思いを有する仲間たちと懇親交流し楽しいひと時を過ごすことができます。

- (3) 地域ツアーをご案内します。
各地に赴いて、市町村長、地域おこし関係者と情報交換、懇親交流する地域ツアーをご案内します。
酒田、秋田、福島などで実施してきましたが、最近はコロナ禍で行っておらず、令和4年度も予定はありませんが、次年度以降は再開予定です。
地域おこしの最先端での様々な取り組みに触れるとともに、市町村長などと地域おこしに関する話題を交換できます。
- (4) ふるさとの情報発信ができます。
かわら版や会員交流会で、ふるさとの情報発信ができます。是非、事務局へご相談ください。お待ちしております。

Q2 : 入会の手続きはどのようにすればいいのでしょうか？

**A2 : 入会案内パンフレットの入会申込書に所要事項をご記入のうえ、郵送又はFAXで事務局まで申し込んでください。
あるいは、以下の項目をメールで事務局までご連絡く**

地域おこしに熱い思いを有する友人、知人の勧誘に活用賜れば幸いです。」

ご挨拶

皆さんはいろいろなふるさとをお持ちでしょう。生まれ育ったふるさと、学生時代を過ごし、友達とともに遊び、ともに学んだふるさと、職場での付き合いから始めて家族ぐるみ、地域ぐるみのつきあいができたふるさと、ちよつと旅しただけなのになぜか心に残るふるさと・・・そんなふるさとの良さを残したい、もっと素晴らしい・・・本会はそんなふるさとへの熱い思いの人々の集まりです。

当初は、ふるさと大使が中心でしたが、その後会員の対象が拡大し、最近では地域おこしに熱意のある方の入会も増えてきています。

そうした方々の地域おこしの活動に資するため、本会では、
 ・会員向け季刊誌「かわら版」で、地域おこしに関する情報提供、会員同士の情報交換
 ・ホームページで、地域おこしに関するタイムリーな情報提供
 ・全国大会で、最新の地域おこしについての講演、第一線で地域おこし活動をしている市町村長、地域おこし活動家などによるパネルディスカッション
 ・会員交流会(新年、夏季)で会員同士の情報交換と懇親交流
 ・地域ツアーで自治体関係者、地域おこし団体メンバーと情報交換・懇親などの活動を行っています。

一緒にあなたのふるさとの地域おこしをしませんか?
 ふるさとに熱い思いを有する皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

全国ふるさと大使連絡会議
 代表 平谷 英明

全国ふるさと大使連絡会議とは

- 設立年月 1996(平成8)年8月8日
- 目的 各地において制度化され、委嘱されている「ふるさと大使」及び「委嘱者」相互の情報交換・交流・連携を図り、全国のふるさと・地域の活性化に貢献することを目的とし、その達成のために各種の事業を行うものとする
- 会員資格
 - ①ふるさと大使
 - ②ふるさと大使委嘱団体関係者
 - ③ふるさとを愛する人々等
- 会費
 - 個人会員 3,000円
 - 団体会員 10,000円
 - (又は会費相当額のご貢献)
- 活動内容
 - ①「ふるさと大使かわら版」の発行
 四半期に1回、1・4・7・10月発行
 - ②「ふるさと大使全国大会」の開催
 - ③会員交流会
 年2回開催、新春(1月) 夏(7月)
 それぞれのふるさとの振興の為の交流会
 - ④ふるさとデー
 各地のふるさと大使の地元紹介
 ふるさとのいいところを語り合い、当会や会員相互にできることを模索する
 - ⑤情報交流会(研究会)

●沿革

年	月	主な活動
1996	8	発足式・ふるさと大使全国大会 888(日本開発銀行) 中馬邦昭代表幹事就任
1997	9	ふるさと大使全国大会 999
1998	9	年次総会及び情報交流パーティー
1999	2	ホームページ開設
	9	ふるさと大使全国大会 FIVE9
2000	10	ミネアムふるさと大使全国大会・鼎談
2001	10	ふるさと大使全国大会・記念講演
2002	10	ふるさと大使全国大会・記念講演
2003	10	ふるさと大使全国大会・記念講演
2004	10	ふるさと大使全国大会・記念講演
2005	10	ふるさと大使全国大会・記念講演 後藤純雄代表幹事就任
2006	7	「ふるさと音頭」制作
	10	ふるさと大使全国大会・記念講演
2007	7	緊急自治体シンポジウム ふるさと大使全国大会・パネル討論 杉原健児代表幹事就任
2008	8	「ふるさと音頭」CD完成
	10	にかほ市視察訪問
	10	ふるさと大使全国大会・記念講演
2009	10	ふるさと大使全国大会・お国自慢
2010	4	山口義夫代表就任
	10	ふるさと大使全国大会 15周年記念シンポジウム
	11	にかほ市視察訪問
2011	6	東日本大震災義援金寄贈(大船渡市NPO・水戸市)
	10	ふるさと大使全国大会・シンポジウム
	11	三陸被災地に視察訪問
2012	10	ふるさと大使全国大会・シンポジウム 義援金寄贈(飯館村)
2013	5	酒田市視察訪問
	10	ふるさと大使全国大会・シンポジウム
2014	10	全国大会・シンポ「縮小時代のまちづくりと住民の幸せ」
2015	4	浅田和幸代表就任
	10	20周年記念全国大会・シンポ「新たな価値を求めて」
2016	10	全国大会・シンポ「縮小時代に地方が生き生き」
2017	3	義援金寄贈(熊本地震被災地)
	10	全国大会「未来をつくる元気自治体、元気のヒミツ」
2018	10	全国大会・シンポ「地域資源とまちづくり」
2019	4	福島県浜通り視察訪問
	10	全国大会・シンポ「若者による地域活性化」
2020	4	平谷英明代表就任 コロナ禍により全国大会中止
2021	10	全国大会・シンポ「ポストコロナの観光戦略」

入会者の声

- ・イベントや会報で自分のふるさと自慢・PR等の情報発信ができ、地元喜んでいただきました。
- ・入会してふるさとへの思いがより強くなりました。
- ・まだまだ知らない日本各地の魅力に出会うことができました。
- ・ある自治体のふるさと大使からいただいた名刺には素敵な仕掛けがあり、その名刺を使って現地を訪問すると、お得に旅行が出来ました。ふるさと大使の名刺はスゴイ!
- ・隣県の大使どうしが全国ふるさと大使連絡会議のイベントで知り合い、その後お互いのふるさと会のイベントに招待しあうようになり、交流が深まりました。
- ・イベントで地酒の飲み比べができて嬉しかったりするのが楽しみです。

ださい。

- ①氏名 ②生年月日 ③住所 ④電話番号
- ⑤FAX番号 ⑥携帯番号 ⑦縁のある市町村
- ⑧職業又は肩書 ⑨会員のご紹介がある場合は紹介者氏名 ⑩その他(ご意見・ご要望など)

入会申込みをいただきますと、毎月上旬に開催予定の理事会でご入会を承認することとなります。
 承認後は、「ふるさと大使」を委嘱されていない方は「全

国ふるさと大使連絡会議・公使」の称号を使用することができます。

なお、「全国ふるさと大使連絡会議・公使」の名刺の印刷は自費でお願いいたします。

Q3: 入会費や年会費はいくらですか?

A3: 入会費はありません。

年会費は、個人会員は3,000円、団体会員は10,000円(又は会費相当額のご貢献)です。

全国大会のお知らせ

- 1 日時 : 10月20日(木) 16時30分～20時30分
- 2 会場 : ルポール麹町 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-3
- 3 会議 : 【基本テーマ】ポストコロナ時代の地域おこし
 (1) 基調講演 (2) パネルディスカッション
- 4 会議後 : 懇親交流 アトラクション
- 5 会費 : 7,500円

*詳細は、別途連絡いたします。

*新型コロナウイルスの感染状況などの影響で変更がありうる点あらかじめお含みおきください。

事務局より

やっと、理事会も月例で行えるようになり、全国ふるさと大使連絡会議の活動も始動をする事ができました。きっと、いい企画を練って、会員皆様のふるさとに貢献させて頂くべく、^{がんば}顔晴ってまいります。

前号(かわら版102号)の事務局よりに、私のふるさと大分県健康寿命県別ランキングで、男性が2019年に36位の低位にあったのに、2021年度に日本一になった事(女性は12位から4位に)を書かせて頂きましたが、編集より、何をしようという素晴らしい成果をあげられたのかを、会員皆様にお伝えしませんかと指摘があり、県に相談しましたら、健康づくり推進課が対応していただき、投稿をしてくださりました。今号に掲載させて頂きました。

このようにして、110万人もの県民の健康寿命を大きく伸ばす事ができた、素晴らしい事例として、健康寿命延伸の大きなヒントをいただきました。皆様のふるさとが健康で元気な人がいっぱいのもちづくりの参考にして頂けたら幸いです。

もう一つ、ふるさと大分の自慢を・・・

健康寿命の寝たきり期間が短い健康長寿の島と評判になっている姫島があります。

姫島の人たちは、畑仕事と海藻とりで運動量は豊富であり、海藻と

サツマイモ中心の食物繊維がたっぷりの日常食が腸内環境を良くして、健康長寿を実現しています。

米麴で発酵させた、自家製のみそにナスやニンジンの塩漬けを細かく切って混ぜ合わせた「納豆みそ」があったり、郷土料理の「いもきり」はサツマイモの粉を練ってうどん状にし、大根、ニンジン、ゴボウ、長ネギに豆腐と一緒に煮こんで、日常食にしているように、サツマイモを主食と言ってよいほどにたくさん食べているとの事です。

適度に体を動かし、体に良いソルフードがあれば、健康長寿もたらされる事例として、我がふるさと大分を自慢させて頂きました。

全国ふるさと大使連絡会議の機関紙であるかわら版は年4回発行しております。私は事務局長として、このかわら版に皆様のふるさと自慢を満載できたらと考えております。その自慢話が、皆様のふるさと活性化に貢献出来たらと、大分自慢を書きながら考えてしまいました。どうぞふるってご投稿を頂き、皆様のふるさと元気な材料にしませんか。



全国ふるさと大使連絡会議の概要

- 設立年月 1996年8月8日
- 目的 各地において制度化され、委嘱されている「ふるさと大使」および「委嘱者」相互の情報交換・交流・連携を図り、全国のふるさと・地域の活性化に貢献することを目的とし、その達成のために各種の事業を行うものとする
- 会員の資格
 - ①ふるさと大使
 - ②ふるさと大使委嘱団体関係者
 - ③ふるさとを愛する人々等
- 会費 所定の会費(3,000円以上、団体会員は10,000円)もしくは相応の貢献寄与をしなければならない

2021年3月末現在の会員構成

大使会員	113名
団体会員	11団体
一般会員	155名
合計	279名

確認された大使制度

	(2019年10月現在)	
県知事が委嘱	44団体	90制度
市長村長が委嘱	630団体	731制度
諸団体等の長が委嘱	147団体	150制度
合計	821団体	971制度

年会費納入のお願い

個人会員—3,000円 特別会員—5,000円 団体会員—10,000円

以下の方法でご送金賜りますようお願い申し上げます。

*郵便振込み 店名 038 普通 7211051 口座名 全国ふるさと大使連絡会議

*銀行振込み 三菱UFJ銀行 亀戸支店 普通 0173146

口座名 全国ふるさと大使連絡会議

*郵便振替 口座番号 00190-7-149658 口座名 全国ふるさと大使連絡会議

(注) 多くの方に郵便振替でお振込みを頂いていますが1月17日の料金改定で、現金での手続きですと振込料に110円加算されます。郵貯口座での、振り込みなら加算されません。郵貯のATMから手続きできますのでご活用いただきますようお願い申し上げます。

編集後記

ウクライナ情勢のニュースを見ていて、唐時代の有名な詩人杜甫の『春望』という五言律詩を思い出しました。

「国破れて山河あり 城春にして草木深し — — —
烽火三月連なり 家書万金に抵(あた)る — — —」

2月末に始まった戦火(烽火)は3月を超え、5か月になろうとしています。

そんな中で家族の便り(家書)は大変に貴重で、手紙がメールやラインに代わっても、家族の安否を気遣う思いは時代を超えて変わらないものと思われまます。

先の太平洋戦争で通信兵として応召された兄を慰問した際の切ないがほのぼのとした思いの短歌を鉦谷さんからいただきました。

また、全国大会2017でふるさとの歌をご披露いただいた尾野さんから、ふるさと越前大野の水の恵みの俳句をいただきました。

特集として、千葉経済大学の影山教授から観光研究ゼミの学生さんたちと行った地域おこしの実践活動の若い視点に溢れる楽しい話、男性の健康長寿日本一となった大分県から、多様な主体との協働による工夫を凝らした取り組みの一端を紹介いただきました。

本連絡会議の関連の記事として、令和3年度決算と活躍報告、令和4年度の予算と活動計画、さらに、新たな装いのものにした入会案内パンフレットを紹介させていただきました。

コロナ禍も3年目となりウィズコロナ・ポストコロナ時代となりましたので、感染防止などに十分配慮しながら、会員交流会、全国大会を開催し、地域おこしに関する新たな情報提供、情報交換に努めていきたいと考えていますので、積極的なご参加をお待ちしています。

ふるさと大使かわら版 2022年7月16日—令和4年夏季号— (通巻103号)

◇発行：全国ふるさと大使連絡会議 (代表=平谷英明) ◇編集責任者：平谷 英明

◇事務局：〒136-0071 東京都江東区亀戸7-65-20 全国ふるさと大使連絡会議

TEL：03-3684-0488 FAX：03-3684-6800 Email：furusatotaishi@gotochi.biz

URL http://www.furusatotaishi.com

